

市長と語ろう市政ミーティング開催結果

開催日時 平成27年4月23日(木)午後7時30分から8時40分まで
会場 生涯学習センター 今立分館
出席者 参加者111人
(市側)市長、企画部長、政策推進課長、財務課長、総務部長、秘書課長
司会・記録 室長
オペレーター 主事

◆市民憲章唱和

◆市長あいさつ及びDVD視聴・説明(当初予算・主要な施策の概要について)

◆市長説明や当初予算・主要な施策の概要に対する意見交換

Q1 <観光推進事業について>

栗田部には、大化の改新の功労者である蘇我倉山田石川麻呂の廟があるので、これを観光の一つに組み込んでいただけないか。

A1 <観光推進事業について> 企画部長

貴重なご意見をありがとうございます。このような越前市の宝を全国に発信する取組みは、今後、観光協会を中心に強烈に進めていかなければならないと考えています。地域の財産についていただいたご意見を、私の方から観光協会にお伝えし、一体となって全国に発信していく取組みを、強力に進めていきたいと思えます。特に、3月14日には北陸新幹線が金沢駅まで開業したこともあり、金沢から県内への人の流れを十分に作れるよう、秋頃からキャンペーンを張りながら、全国に発信していきたいと考えています。今後とも、皆様には、地元の歴史や遺産などを発掘しながら、私どもの方へお寄せいただきますようよろしくお願いいたします。

Q2 <高齢者問題について>

岡本小学校の生徒数は、24年前から50%減っている。さらにこの一年間で、3.7%の減少である。人口問題については、市長より対策の説明があったが、高齢者問題についても一考いただきたい。高齢化率はすでに26%を超えており、将来、認知症になる可能性は、5人に1人の20%を超えていると言われている。しかし、残念なことに、今日の資料を見ると、5項目の中に、高齢者問題に関する予算が全く明示されていない。認知症問題、

徘徊の問題、特に、終末医療をどうするかについては、取組み次第でかなり経費が削減されるのではないかと思う。胃に穴を開け、たくさん管を刺すことが、はたして良いのか、自然死を見直す必要があるのではないか。これまで行政は悪くならないための対策は、色々取り組んでいただいたが、悪くなった場合にどうするのか、これについては、先が見えていないように思う。これらについて、今後、行政はどのように取り組まれるのか、また、高齢者問題の対策にどの程度の予算が充てられるのかお聞かせ願いたい。

A 2 <高齢者問題について> 企画部長

配付した資料では、「元気な人づくり」として、子ども・子育て支援を中心とした内容となっているので、口頭で補足説明します。老人福祉関係の予算で最も大きいものは、65歳以上の方が使われる介護保険です。老人福祉費全体では、在宅支援や特別養護老人ホーム入所時の市負担金などを含め、今年度、約12億5千万円を予算計上しています。市長の説明にもありましたが、高齢者福祉保健計画や介護保険事業計画の策定にあたっては、市民の皆さんに、どのような事業を進めていくか、ご説明させていただいたところです。

また、医療費の抑制については、本市だけではなく日本全国の自治体共通の課題であると思っています。特に、本市では、国民健康保険に係る医療費負担が年々増大しています。ご意見にもありましたが、これまで行政は、病気に罹らない、医療機関を受診せずに済むようにと、「健康づくり」に力を入れてまいりましたが、これからはジェネリック医薬品の使用なども進めていかなければならないと思っています。

終末医療については、ご本人、ご家族のいろんな考え方があるかと思います。こういった問題については、国民の間で、あるいは医療機関も含め、これから日本全体で議論していく課題かと考えています。

Q 3 <イノシシの殺処分について>

粟田部町では、3基の檻を山に仕掛け、365日、住民が交替で確認作業を行っている。檻に掛かったイノシシを銃で撃ち殺し焼却するのは、あまりに惨いことだ。嶺南には食肉解体作業場があり、県では、嶺北にも検討中だとのこと。市は、処分費用を補助や全額負担などと言うが、例えば、イノシシの肉を食用として都会に売り出すとするならば、イノシシ1頭につき、5千円でも1万円でもいただけるなら、私たちの努力も報われるのではないかと思う。

また、現在、檻の確認作業は、365日、ボランティアで人が交替で行っているが、全国では、センサーやカメラで監視する方法を、どこでもやっている。本市でも、できるだけ費用をかけず効率的に監視ができる方法を考えていただきたい。

A 3 <イノシシの殺処分について> 企画部長

今行っている対策は、いわば対症療法です。もともと山が荒れなければ、山に住む生き物たちが里山に下りてくることはなかった。我々人間の長年の活動によって山が荒れ、今のような状況になっているのであり、里山に出てこないように対処することが、一番のポイントだと思います。将来的には、昔ながらの豊かな山に戻す努力を、日本全体が取り組まなければいけないと思います。とは言え、ここ数年で昔ながらの豊かな山を取り戻すことは難しいことですので、今後、市民と行政が一緒になって、そういった取り組みを行っていかねばならないと思います。嶺南の処理場については、嶺南の自治体が共同で、原子力関係の交付金を活用し建設したと聞いております。本市も、何年か前から丹南地区全体の中で処理場の建設ができないか、県に要望しています。何年頃に実現するか時間的目標をお示しすることは難しいですが、自治体間での研究を地道に続けていきたいと考えています。また、監視体制についても、効率的な対策がとれるよう、財源も踏まえ、庁内で十分検討を進めてまいりたいと思います。

Q 4 <介護予防運動の実施について>

老人福祉費として約12億5千万円が予算計上されているとの話だが、今立地区において、今年度計画されている介護予防のための定期的な教室があれば教えてほしい。

A 4 <介護予防運動の実施について> 長寿福祉課長

本市では、多くの介護予防事業に取り組んでいます。元気な高齢者を対象にした1次予防教室として、一番ポピュラーな「いきいきふれあいのつどい」は、市内全域178箇所で行います。また、「いきいき運動広場」は、社会福祉センターで月1回開催し、ラジオ体操やいきいき体操、お達者体操など実践します。さらに、「健康アップ講座」を福祉健康センターで、「男の腕まくりキッチンスタジオ」を社会福祉センターで開催します。

足腰の少し弱った高齢者を対象とした2次予防教室としては、「ひだまり教室」を社会福祉センターにおいて週1回3カ月間を年2回開催し、運動や栄養、歩行機能の向上、認知症予防などの取り組みを行います。

Q 5 <介護予防運動の実施について>

これらの取り組みについて、高齢者が知る方法や一覧表になったものなどはあるか。また、車の運転ができない高齢者も多い中、こういった教室に参加し易くするための、会場までの交通手段について、何か考えているか。

A 5 <介護予防運動の実施について> 長寿福祉課長

広報手段については、2カ月に1度「支援だより」を約4千部作成し、公民館や医療機

関に配布しています。また、交通手段のあり方としては、先程の2次予防の事業については、自宅から会場までの送迎を準備しています。

Q 6 <介護予防運動の実施について>

送迎してもらえるとという情報は、公民館や医療機関に出向き「支援だより」を見ることでしか、確認はできないのか。また、送迎を付けて2次予防教室に参加するための、具体的な手続きを教えてください。

A 6 <介護予防運動の実施について> 長寿福祉課長

2次予防教室の対象者については、65歳以上の方に、3歳刻みで定期的に身体機能のチェックリストをお送りし、回答いただく中で把握しています。そして、地域包括支援センターの職員が各家庭を訪問した際に、2次予防教室を勧奨し、ご理解いただいた方に、送迎付きの介護予防教室に参加していただいています。なお、広報については、地域包括支援センターの職員も、独居高齢者世帯や高齢者のみの世帯など各家庭を訪問する際に、「支援だより」を持参しています。

Q 7 <社会福祉センターの利用促進について>

杉尾町にある社会福祉センターは、料理も運動もできる充実した施設でありながら、十分にその機能が活かされていないように思う。今年から新しい市民バスも走り、もっと有効的で効率的な活用方法があるはずと思うが、どのようにお考えか。

A 7 <社会福祉センターの利用促進について> 企画部長

社会福祉センターの活用については、これまで担当部局でも色々な工夫をしてきたと思っていますし、現在は、指定管理制度に基づき社会福祉協議会に管理運営の委託をしていますが、その中でも色々な工夫をしていただいていると思います。しかしながら、このようなご意見があったことは、指定管理者、担当部局に申し伝えます。

なお、今立地区には3ルート of 市民バスが月曜から金曜まで走っていますが、ここ1年ほど、大変利用者が減っています。これは、これまで外出する際に市民バスを利用されていた高齢者の方が、次第に外出できなくなっているのかなと思っています。つきましては、元気な高齢者の方々には、市民バスを積極的にご利用いただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

◆閉会